

鹿児島の動物17

ジャワマンゲース

「本来生息していなかった地域に、自然状態では起こりえない手段によって移動して、そこで自然繁殖するようになった動物」を外来動物といいます。今年になり、この外来動物として有名なマンゲースが鹿児島市喜入地区に生息していることが判明しました。

このマンゲースは、ジャワマンゲース（右写真）と考えられており、これまで、国内では、沖縄島、奄美大島にのみ生息



ジャワマンゲース

しているとされてきました。西アジア原産で、もともと日本在来種ではありません。顔は耳から鼻先にかけて細長く、体はほっそりとしており、足が短いのが特徴です。また体は黒と白のしま模様がある短い毛で被われており、濃い灰色をしています。尾にはしっかりと筋肉がついており、先端に行くにつれて細くなります。

右図中の●は、当館が今年3月に研究報告書にまとめたマンゲースの目撃・収集地点です。さて、鹿児島市で発見されたマンゲースは、どの範囲に住んでいて、何を食べているのでしょうか。現在、マンゲースの生息範囲を調査しています。

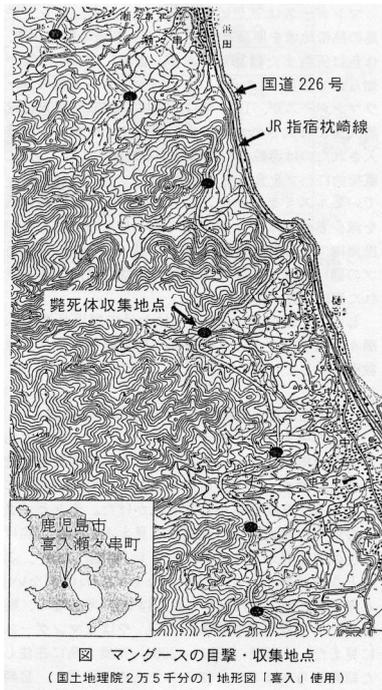


図 マンゲースの目撃・収集地点
(国土地理院2万5千分の1地形図「喜入」使用)

生け捕りわなによる捕獲も実施し、7月30日までに8頭を捕獲しました。捕獲した地点は、発表されていませんが、この●地点に近い範

囲と考えられます。なお捕獲した個体は、消化管の調査も実施しています。これにより、どんなものを食べているのかが明らかにされていくことでしょう。今後新聞やテレビなどで発表があるかもしれませんので、興味を持っていただければと思います。

現在本館2階の企画コーナーでは、このジャワマンゲースと見間違えやすい動物のテン、イタチの剥製を展示をしています。以下に見分け方のポイントを紹介いたします。

* ジャワマンゲース

体色は濃い灰色で主に昼間活動します。耳が小さく頭が丸く見えません。尾は長く根元が太く、先に行くほど細くなります。



ジャワマンゲース

* テン

体色が黄色や褐色で、夜活動し、よく木に登ります。耳が大きくよく目立ちます。尾は中程が太くなっています。



テン

* イタチ

体色が明るい茶色で、夜も活動します。顔に黒い斑紋があり、耳は小さく目立ちません。尾はテン同様中ほどが太くなっています。



イタチ